



みらいっうしん

7月号

2026年7月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 勝浦 芳子

人との出会いと体験活動

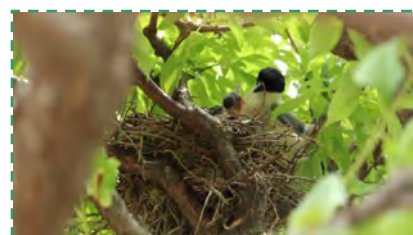
今年の梅雨は、台風も多く、局地的な大雨を記録するなど日差しが少なくなっています。その反面、例年以上の蒸し暑さや高温度が心配されています。本園でも子どもさんの安全を考えて、テント、熱中症アラームの設置、水分補給、着替えなど、お子さんの体調ケアに必要なことは行っておりますが、この時期は体調を崩しやすいので、ご家庭でも十分な睡眠と食事をするように心がけてください。

さて、念願のプール遊びが始まりました。乳児組さんは、中庭に水遊びの道具を出し、水の感触を味わいながら楽しく遊びます。幼児組さんは、園庭に大きなプールを設置すると「いつから入れるの?」「早く入りたいな」と、皆心待ちにしていました。「今日からプールが始まります」と声をかけると、ワクワク、ドキドキ感が最高潮に膨れ上がり、子ども達は今か今かとスタンバイ! プール開きの儀式として、子どもの安全を祈願するお塩のお清めも、真剣な表情で手を合わせる姿があり、人は興味関心があるものには、こんなにも集中するものなのだなと痛感しました。「それではどうぞ」という合図で、にじ組さん、そら組さんの順にプールに入りましたが、想像以上に水が冷たく感じたようで、初回は、「ワ～冷たい」とここでも感情があふれ出し、友達と笑顔で共感していました。水をかけたり、ワニさん歩きをしたり、水鉄砲やペットボトルを使ったり、それぞれ遊び方は違いますが、水に触れることで、心地よさを感じ、心の奥にあるストレスも解消しているようでした。ほし組さんは、天候の関係で、まだプール遊びはできていませんが、ホールで水着姿になり、新聞紙を使って、プールごっこをしました。新聞を破き、プールに見立て新聞を上から落としたり、新聞紙の中で泳いだりと、ホールが一瞬にしてプールに大変身した光景でした。早く本当のプールに入れるといいなと感じました。「水遊び」は、実は、体と心の発達をサポートする重要な活動で、特に『感覚』『視覚』『聴覚』を刺激し、心の安定と新しい世界に導くたくさんの要素が含まれています。安全で楽しい遊びができるよう工夫していきたいと考えています。その他の遊びにも目を向けると、園庭では、砂場遊び、水遊び、泥んこ遊び、泥団子作り、虫取り、花探し、カエル探し、お池のメダカ観察、野菜づくりなど、興味を持つものは人それぞれですが、身近な自然に親しみながら、好みの道具を使って満足するまで遊びを楽しんでいます。この自然体験から生まれる感動は、とても大切で命の気配に触れることで、五官(目、耳、鼻、舌、皮膚)が生き生きと活動し始め、五感(見る、聞く、嗅ぐ、味わう、触れる)も、研ぎ澄まれていきます。今後も自然に触れる遊びが、どんどん子ども達の中で、展開していくよう声掛けや環境づくりに丁寧に関わっていききたいと思います。

6月は、たくさんの方々との出会いがありました。調布学園の中高の学生、田園調布学園大学の学生、移動動物園の飼育の方、絵本作家・編集者、100周年記念の撮影カメラマン(ドローン)など、ジャンルは異なりますが、こんなにたくさんの人と出会うことは幸せに感じます。人は、どんな人に出会うかによって人生が変わるといわれます。多くの人と関わることで、人間の基礎が培われると思いますので、子ども達にとってもよい体験になっていると感じます。子ども達の将来の為にこれからもよい体験ができるようにしていきたいと思っています。



おっきいキュウリがとれた～!



オナガがスモモの木に巣作りをし、子育て中です。